



平成28年度から、県北生涯学習センターのエリアは日立市・高萩市・北茨城市・常陸太田市、そして常陸大宮市と大子町の5市1町になりました。  
常陸大宮市と大子町をアピールする仲間、ロザリンとセイルをどうぞよろしく！

### 常陸大宮市

平成16年10月、5町村が合併して現在の常陸大宮市が誕生しました。市の約6割を山林が占め、久慈川と那珂川、ふたつの水系を擁する、山の緑と水の青に恵まれた自然豊かなところです。  
今年、3月25日にオープンした道の駅「かわプラザ」、5年ぶりに公演が決定した西塩子の回り舞台など、見逃せないわくわくがいっぱいの常陸大宮市です。

### 大子町

大子町は、日本三名瀑のひとつ「袋田の滝」であまりにも有名です。町のほぼ中央を流れる久慈川の清流は、夏の景色を涼やかに彩るだけでなく、氷の小片が無数に川面を流れる「シガ」は、幻想的な冬の朝をつくります。  
平成19年に「読書のまち」宣言をした大子町は、読書活動がさかんであるほか、小中学校から選ばれた子ども議員による「子ども議会」の活動でも高い評価を得ています。

### 日立市

日立市は、4月になると桜色に包まれます。日本のさくら名所百選にも選出されている日立駅前の平和通りを主な舞台に開催されるさくらまつり。ユネスコ無形文化遺産に選ばれた日立風流物の山車が圧巻です。  
また、古代からの信仰の地であったかびれの峰と御岩神社は、パワースポットとして有名です。  
技術だけでなく、伝統・伝承。硬軟併せ持つ日立市です。

### 常陸太田市

常陸太田市の美しい田園風景は、映画『ディア・ドクター』のロケ地にもなりました。山の地形を生かした竜神大吊橋のバンジージャンプは高さ100m。観光客に人気です。  
また、茂宮川上流で発見された5億1100万年前の地層は、日本列島がどのようにできたかを考察する上で大きな意味を持っています。  
冒険・発見、そしておいしい蕎麦の常陸太田市です。

### 高萩市

かわいいキャラクター、はぎまるが人気の高萩市は、伊能忠敬に先がけて日本の地図を作った地理学者長久保赤水、ソメイヨシノやワサビの学名にその名を残す松村任三など、多くの賢人を輩出した歴史と学問のまちです。  
秋の紅葉がみごとな花貫溪谷、民話が伝わる名馬里が淵、また、大正7年に水力発電のために作られた水路橋「めがね橋」など、見る・知る、心が満ちる高萩市です。

### 北茨城市

「七つの子」などの童謡で知られる野口雨情のふるさと北茨城市。岡倉天心が移り住み、日本近代美術の夜明けを導いた文化のふるさとでもあります。天心記念五浦美術館の静かなたたずまいとは対照的に、5年に1度神船が陸上を渡御する勇壮な常陸大津の御船祭（次回は平成31年）。6月1日にオープンする新図書館は、シャボン玉をモチーフにした作りの中にカフェを備え、生涯学習の拠点となるなど、北茨城市は教育・文化を大切にすまちはです。



小野瀬先生の講義

### 平成28年度 ヤングボランティア研修会

5月7日(土) 10:00~15:00  
 会場：茨城県立県民文化センター分館



熱心に発表を聞く

### その手から世界へ

講師にNGO茨城の会事務局長 小野瀬武康さんをお迎えし、県北地区、水戸地区の高校生を対象とした「ヤングボランティア研修会」を開催しました。

この事業は、ボランティア活動についての基本的なことを学び、それを地域で生かせるようにすることを目的とした、今年度からの新事業です。新事業ということもあり、高校生の反応を危惧しておりましたが、75名の参加申込があり、嬉しい限りでした。

当日の研修は、午前の講義と体験、午後のワークショップという3部構成となりました。小野瀬講師をはじめ、スタッフとしてお手伝いいただいた常磐大学の学生や、NGOで実際に活動しているメンバーの指導の下、活発に、またとても楽しく和気あいあいの雰囲気となった研修でした。

体験では、子どもたちが使わなくなった学校教材を、フィリピンはじめ東南アジアやアフリカの国々に送って再利用していただく「教材再生プロジェクト」の取り組みに参加。教材の清掃、梱包作業をし、各国に送る準備をしました。

午後からは「ボランティア活動にとって大切なこと」をテーマにワークショップを行い、グループごとの意見発表をしました。

この研修会を通して「物を大切に使う心」「学習することの大切さ」「社会や人の役に立つ喜び」などを学び、ボランティア活動が一方向ではなく、支援する側、される側の別なく双方向に元気をもたらすものであることを理解しました。

参加した皆さんが、日本はもちろん、世界に目を向けて、その若い力を発信していける大人となることを確信できた一日でした。

(事業グループ：永井)

困っている人の支えになるようなボランティアがしてみたいと思いました

海外に行つて、実際に触れあい、体験してみたいです

意見を述べるのは苦手ですが今日のように汗を流してやることは気が分がいらぬと思いました

子どもが笑顔になるようなことをしたいと思いました

大学生の意見が聞けたのが良かったです

もっといろいろな視野をもちたいと思いました

またこのような集まりがあれば参加したいと思います

私は、ただただボランティアが好きというだけで活動していました。ですので、もっと知りたかったです

※斜めの青字は当日参加した高校生のアンケート自由記載からです。

#### 教材再生プロジェクト

子どもたちが使わなくなって、家庭で眠っている教材を、フィリピンはじめアジア・アフリカの学校に送るプロジェクトです。皆様のご協力をお待ちしています。

こんなものを集めています

楽器	鍵盤ハーモニカ・リコーダー カスタネット・タンバリン など
文具	ノート・鉛筆・ボールペン 定規・コンパス・クレヨン など
スポーツ用品	ソフトボール・バット・グローブ 剣道用具・ボール類など
その他	裁縫セット・彫刻刀・そろばん ランドセル・縄跳び など

県北生涯学習センターでお預かりしています。  
 ご不明な点はお問合せください。



教材の清掃・梱包作業をする高校生たち



(左・上) グループワーク



NGO茨城の会では、これまでにアジア・アフリカ11カ国の子どもたちに楽器を届けてきました。左の写真は、日本から届いた楽器で開催されたフィリピンの音楽会の様子です。(2007年)



自分たちの思いや意見をまとめ、各グループの発表

## 郷土に確かな軸足を据えて

—子どもたちのために 未来のために—



県北生涯学習センター

茨城県県北生涯学習センター長  
 野口 不二子

当センターはおかげさまで11年目を迎えることができました。これもひとえに地域の皆さま方から力強いご支援、ご協力をいただきましたことと深く感謝を申し上げます。

少子高齢化など社会の急激な変化や、地域コミュニティの希薄化に伴い、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わることが予想されます。特に未来を担っていく子どもたちに体験を通して学ぶ環境を社会全体で支えることが重要です。

すべての子どもたちが「生きる力」を身に付けられるよう家庭・学校・地域が連携していく大切さを推進していきます。

車窓から若草色に染まる葉桜の長いトンネルをぬけると、そこには田植えをする姿や、生き生きと泳ぐ鯉のぼりが今年も変わらず爽快に見えます。震災から5年がたち、私たちはさまざまな教訓を得たと思います。

熊本を中心に発生した大震災。激しく揺れつぶれた家屋、給水を待つ人々の長い列、ひしめく避難所、まさかと思われる5年前私たちが襲った悪夢のような状況が映像から流れ、胸が痛みました。とにかく今は余震が収まり、時間がかかるけれども必ず普通の生活に戻れることをお祈りします。これからも熊本を応援して参ります。

センターの指針は、生涯学習社会を支える地域づくりを目指して多くの人々と共に学び、豊かな人間関係を築き、地域社会の創生を図ることです。今後ともよろしく願います。

## 第5回 関東ユニカール交流大会で 日立北カールの会が見事優勝!

### ユニカール

氷上でなく、カーペットの上でやるカーリング。誰でも楽しめるので「ユニバーサルカーリング(みんなのカーリング)」から「ユニカール」と名付けられたニュースポーツ。

### カールの会

カールの会は、平成20年9月に、県北生涯学習センターの講座から生まれました。基本的に、毎週金曜日の午前中に活動しており、日立市及び茨城県ユニカール大会では何度も優勝しています。見学・体験は随時受け付けています。

関東ユニカール交流大会には、毎週県北生涯学習センターで練習をしているカールの会より、代表A、B、Cの3チームが出場し、Bチームが見事優勝した。(Aチーム…予選敗退、Cチーム…決勝トーナメント一回戦敗退)

一都六県から代表75チーム(東京14、神奈川9、茨城17、群馬2、千葉3、埼玉7、栃木23)約二百五十五名が参加して行われた。各ブロック15コートに分かれ、5チームによるリーグ戦を行い、各ブロックの上位2チームによる決勝トーナメント戦の結果、強豪チームである杉並チーム、東村山チーム(いずれも東京)を破り、茨城県勢では初めての優勝の栄冠に輝いた。

(カールの会代表…河井寿一郎)

本年3月13日(日) 栃木県鹿沼市  
 鹿沼総合体育館(フォレストアリーナ)で  
 関東ユニカール交流大会が開催されました。



鹿沼総合体育館にて、カールの会のメンバー  
 鹿沼市マスコットキャラクター ベリーちゃん

# Impactの星



自負と責任  
 ~民間だからできること~  
 NPO インパクト副代表  
 森 秀明

皆様にご利用いただいている当センターですが、NPOインパクトに任されている指定管理機関がこの4月で第3期目に入りました。県から5年間を1期として任されているので、年数でいえば11年目になります。

今改めて考えると、当時はまだ経験の浅い民間団体に地域の生涯学習の拠点を任せる決断をされた関係者の方々のチャレンジ精神に敬意を払い、これからもその期待に応えて行かなければならないと気が引き締まる思いです。

一方で実績や固定観念がなかった分、様々な企画や施設の利用方法など、利用者の要望に柔軟に応えられていたのではないかと若干の自負もあります。

民間としての特徴を生かし、これからも利用者の皆様それぞれの「生涯学習」の実現に向けて努力をしてまいります。今後とも活発な利用をよろしく願います。

### NPO インパクト

#### 茨城県県北生涯学習センター運営(指定管理者)

平成12年設立。文化・芸術・スポーツの振興を通じて、元気で明るいまちづくりを目的に活動。日本初の生涯学習センター民間運営に携わる。



センターのキャラクター  
 6人のケンボックル

左から、モーリン、ウミル、ロザリン  
 セイル、フーミン、リックル

Welcome to all of New

Hi to all again. This is Mark from IES. This is our second school year opening as of April 2016. I am telling you we are growing fast. Now our school has more than 140 students. We are inviting everyone out there to try our school for a trial lesson and decide about the quality and care you will deserve in our school. We have a new teacher and four assistants to help our kids learn rapidly. We are planning to take some students overseas. It's an exciting chance to all for polishing and improving the language they have already learnt. Guess that's enough for now. See you later...



Zoha先生とMark先生

インパクトイングリッシュスクール  
入会は随時受け付けています。  
お問合せは 0294-39-0012  
県北生涯学習センターまでどうぞ。

ウェルカム！ 新入生 新年度

こんにちは、皆さん。  
IES(インパクトイングリッシュスクール)のマークです。  
2016年の春は、私たちのスクールの二年目が始まります。IESはめざましく成長しており、現在百四十人以上の生徒がいます。私たちは体験レッスンの生徒を募集しています。ぜひ私たちの授業の質をその目で確かめて下さい。

IESでは私のほかもう一人の教師、そして四人のアシスタントが子どもたちの学びを進める手助けをします。  
IESでは、何人かの生徒たちを海外へ連れていく計画をたてています。これは言語を学びつつある人、すでに学んだ人、全ての人に与えてほしい機会となるでしょう。さて、今回はこれにてお暇いたしました。それではまた……

どこにでもいる青年だった

市井に生きた一人のシベリア抑留経験者の、戦前から戦後の体験を、息子で社会学者の作者が聞き取り、書きあげた本である。と同時に、同時代の社会全体の有り様が丁寧に描かれている。

1925年生まれの父謙二は、第二次世界大戦末期の1944年11月徴兵を受け、旧満州で終戦。シベリアに3年抑留。帰国後程なくして結核を発病し、5年の療養生活を送る。その後日本の復興、高度経済成長期と共に働き家庭を築いていくが、その間にも「不戦兵士の会」への参加。地域の自然保護活動。「朝鮮皇国兵士」との協働での戦後補償訴訟に関わっていく……

謙二の語り口は決して声高でなく淡々としているが、その中に静かな怒りを湛えていて、その言葉は重く響く。  
(本のコンシェルジュ：和地)

今回とりあげた本



『生きて帰ってきた男』  
—ある日本兵の戦争と戦後  
小熊英二 著 (岩波新書)



小熊英二の青少年向けの本『日本という国』(イーストプレス「よりみちパンセ」)も、とてもわかりやすい本です。併せてどうぞ。

本の  
のぼり旗



子ども教室は、日立市立櫛形小学校の子どもたちが、県北生涯学習センターを会場として、放課後の時間に学年やクラスを超えて楽しく遊んで学べる場です。

2年生……19人  
3年生……11人

子どもたちに聞きました！



子ども教室  
どうですか？

- ・友だちがいる
- ・楽しいことかいっぱいできる
- ・おもしろい
- ・宿題ができる 他



子ども教室に  
参加したきっかけは？

- ・自分で来たいと思った 9人
- ・親に言われて来た 17人  
(この時の出席 26人)



今までで一番楽しかったのは？

パフェづくり！ (満場一致)

これとあわせて、「母の日のプレゼント作り」も楽しかった、という子がたくさんいました。木の粘土で作ったペンダント。お母さんが喜んでくれて感動したそうです。

ホールでミニ運動会を  
やりました。(5/13)



キャタピラ競争



風船の重び



新聞紙を丸めて玉入れ

自分たちで作ったおやつ  
チョコバナパフェ



これからやってみたいことは？

- ・大なわとび
- ・おもちつき
- ・焼肉パーティー
- ・花火
- ・工作
- ・音楽(歌う)
- ・紙を丸めて雪合戦
- ・リンゴパーティー(?)
- ・おにごっこ
- ・ドッジボール
- ・バンジージャンプ
- ・父の日のプレゼント
- ・お菓子作り
- ・ゲーム
- ・運動会 他

編集後記

輝くような新緑が、少しずつ色濃くなってきました。植物が盛りを迎えるのに合わせるように、センターでも講座が続々と開講していきます。

センターに来所の際には、目的の講座・目的の部屋だけでなく、2F・3Fの廊下やエントランスなどもぜひのぞいていって下さい。そして、何でもご遠慮なくセンター職員にお尋ねください。

11年目を迎えて、センターだよりの紙面を一新しました。ご意見・ご感想をお待ちしています。(事業グループ：中村)